（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援　ババビー福山加茂			
○保護者評価実施期間	2025年　11月　22日	～	2026年　1月　17日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	41	（回答者数）	35
○従業者評価実施期間	2025年　11月　22日	～	2026年　1月　17日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　1月　26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの成長を実感できる支援が提供されている点は、本事業所の大きな強みである。	子どもの成長を実感できる支援を行うために、本事業所では、まず一人ひとりの特性や発達段階を丁寧に把握し、具体的で達成しやすい目標を設定した個別支援計画に基づいて支援を行っている。また、活動の中では小さな成功体験を積み重ねられるよう関わり方を工夫し、できたことをしっかり認める声かけを意識している。	子どもの成長をより分かりやすく「見える化」する取り組みを強化していくことが重要である。
2	活動スペースの広さや清潔さ、設備面への配慮については非常に高い評価を得ており、子どもが安心して活動できる環境が整備されている。	活動スペースの広さや清潔さ、設備面への配慮については非常に高い評価を得ており、子どもが安心して活動できる環境が整備されている。日頃から、子どもの動線を意識した空間づくりや、活動内容に応じた環境設定を行い、安全にのびのびと体を動かせるよう工夫している。	現在の安全で快適な環境を維持しつつ、子どもの発達段階や特性に応じた環境調整をより一層進めていくことが重要である。
3	入所時の説明の丁寧さに加え、日々の活動の様子や子どもの状況についてこまめに情報共有が行われており、保護者が安心して相談できる環境が整っている。	入所時の説明の丁寧さに加え、日々の活動の様子や子どもの状況についてこまめに情報共有が行われており、保護者が安心して相談できる環境が整っている。	日常的な情報共有を継続するだけでなく、伝達内容の「見える化」と双方向のやり取りを一層強化していくことが重要である。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保育園や他児との交流機会が少なく、地域とのつながりが十分とは言えない点が弱みとして挙げられる。	地域交流については、安全面への配慮や支援体制の確保を優先してきたため、外部との連携機会を計画的に設定できていなかったことが要因と考えられる。	地域交流の機会を計画的に設定し、地域の園や関係機関との連携を進めることで、子どもが社会経験を広げられる場づくりを行う必要がある。
2	災害訓練や安全対策については実施しているものの、保護者への周知が十分に行き届いておらず、認知が低い点が課題である。	災害訓練や安全対策については、実施自体は行っているものの、保護者へ伝える手段やタイミングが限定的であり、周知方法が十分でなかったことが要因である。	災害訓練や安全対策については、通信・掲示・LINE等を活用し、実施状況や内容を分かりやすく定期的に発信するなど、保護者への周知方法を工夫する必要がある。
3	家族支援や保護者同士の交流機会が限られており、保護者支援の取り組みが見えにくい点が弱みとして挙げられる。	家族支援については、個別相談を中心に対応してきたため、保護者同士の交流機会や家族向けプログラムを体系的に実施できていなかったことが要因と考えられる。	家族支援の充実に向け、保護者会やミニ研修、情報交換の機会を設けるなど、保護者同士がつながれる場づくりを計画的に行うことが求められる。